



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和6年5月1日
文責：校長 江上 知男

朝の見守り



「子どもたちの見守り」に感謝！

入学式のあいさつで、1年生に伝えたことが3つあります。「お話をしっかり聞く」「お友達としっかり遊ぶ」とともに、「命を大切にすること」でした。もちろん生活全般のことですが、特に「登下校」のことを意識した言葉でした。本校は、どうしても登下校時には他の学校に比べて危険な箇所が多くあります。

そこで、地域の方々が「見守り」をしてくださっています。朝は、月に数回交通安全指導員さんが活動さ

れるほか、鍋田町長や議員さんが毎朝のように交差点に立ってくださいます。また、下校時は「地域ボランティア」の方々が、一緒に歩きながら安全を確認してくださいます。おかげで、どれほど子どもたちの命が守られていることか…。地域の皆さまに、心から感謝いたします。さらに、保護者の方々も見守りをしてくださっている様子を散見します。重ねて感謝いたします。

ところで、「朝の交差点見守りにご協力いただける地域の方」がいらっしゃれば、学校にお知らせください。数が多ければ多いほど、子どもの安全につながると考えております。

なお、昨年から工事に入っている歩道橋は、最新の情報によれば「8月末には完成する」とのことです。2学期の始め頃からは利用できそうですので、もうしばらくお待ちください。



身に付けて欲しい「他人を尊重する言葉」

昨年から「おじいちゃん」になった私は、孫が発する言葉が気になって仕方ありません。要するに、孫からはやく「じいじ」と言われたいのです(笑)。今は、まだ「まんま」の時期です。赤ちゃんが、言葉を使い始めてコミュニケーションがとれるようになるのは、実は3才くらいからだそうです。一応、子育てはしてきた(つもり)ですが、我が子のことはすっかり忘れてしまいました(汗)。

ところで、アメリカでは「大人が子どもに意識的に教える言葉がある」と聞きました。1番は「サンキュー(ありがとう)」、2番は「プリーズ(どうぞ)」、3番は「ユアウェルカム(どういたしまして)」だそうです。もちろん、家庭や地域の考え方によって差はあるでしょうが、感謝→思いやり→歓迎という「他人を尊重する言葉」を、まだ意味も分からないうちに教えるのだそうです。

私は、アメリカの文化に詳しい訳ではありません。ただ、人種、民族、宗教等、様々なものが違う国ですから、自己主張…すなわち「自分の感情を伝える言葉」が大切にされるのかと勝手に想像していました。ですから、「他人を尊重する言葉」を大切にすることに感動しました。

同時に、本校にも素敵な子どもたちがたくさん在籍することに思い至りました。「おはようございます」「ありがとうございます」などの言葉を、目を見て伝わるように表現できる人(わざわざ校長室に来てくれる人も…)、下級生に「慌てなくていいよ」「段があるから気をつけて」と声をかける登校班長、友達に対して「相手が傷つかない声かけの工夫」をしている人などなど、枚挙にいとまがありません。そのような子どもを育てられた家庭内の「会話」が、何となく想像できます。

他人との関わりのない世の中など考えられません。子どもたちが「他人を尊重する言葉」を発したとき、「そのことに気づき、認めてやれる大人でいたい」と考えています。